



練習中、プレーなどに対して、たびたび松本監督の檄が飛ぶことも。選手たちは常に緊張感を持って練習に臨んでいる。



攻めるように守るのが同部の特徴。前からプレッシャーを与えて、相手のミス誘い、得点につなげて流れを引き寄せせる。



勝利の先にあるものは、栄誉でもメダルでもなくとびっきりの笑顔スマイル

熊日学童オリンピック ミニバスケットボール大会で初の栄冠 長洲小学校 女子ミニバスケットボール部

「声を出せ！しっかりゴールを見ろ！」松本伸司監督の檄が体育館に響く。夏の太陽で熱気に包まれた体育館。そこにはバスケットシューズの音とボールをつく音とともに、練習に汗を流す選手たちの姿があった。

7月28日から8月4日まで行われた「第39回熊日学童オリンピック ミニバスケットボール大会」。県内201チームの頂点を競うこの大会で、長洲小女子ミニバスケットボール部は初めてその頂点に立った。

同部のスタイルは「攻めるバスケット」。前からプレッシャーをかけて試合の流れを一気に引き寄せるスタイルだ。松本監督は県内外のチームとの練習試合や基礎練習を行い、今のスタイルを作り上げた。

「全員で攻めて、全員で守るチーム作りをしてきました」と胸を張る。

選手たちもそれに応えるように、中島由夏主将を中心に、試合やプレーのことなどを話し

合ったり、つらそうにしている人には声をかけたりしてチーム力の結束を図ってきた。今では試合に負けて、泣いて悔しがる選手がいるほど、チームの結束は固い。中島主将は「きついき、苦しいときも声を掛けあって一緒に乗り越えてきたからこそ、チームはともまともまといえると思います」と笑顔を見せる。

松本監督は「学校、保護者や地域一体となって応援してもらい、選手たちはのびのびとプレーができています。そのことに感謝する心を持って次の大会も臨んでほしい」と期待を寄せる。今は11月に行われる県大会に向けて練習に励む日々。飽くなきバスケットボールへの情熱。その原点は「バスケットが好き」という気持ちにほかならない。その原動力をチームの力に変えて、次の大会も、彼女たちが熊本に長洲旋風を巻き起こしてくれることだろう。